

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

※¹ 文化人類学者のデヴィッド・グレーバーがアフリカのある社会のことを紹介している。そこでは、何かをもらったり、借りたりした場合、その「借り」を返すときには、同等の価値のものを返してはいけない。借りたものに比べて、お返しはより少ないか、より多いか、でなければいけない。なぜかという点、同じ価値のものを返すと、貸し借りがなくなつて、そこで両者の関係が終わってしまうからだ、と。

両者の間に「貸し借り」の関係があるかぎり、人間関係は続く。つまり、この社会では、「貸し借り」が人間をつなぐ役割をはたしている、と考えられているのだ。ほくたちの世界では、ふつう、「借り」はさつさと返すべきものだ。しかし、この人々は、「借り」は悪いものではなく、人間が社会に生きていくのになくしてはならないものだ、と考える。「借り」の中身が何かに関係なく、「借りる」という行為そのものが大事なのだ。そしてその背後には、こういう考え方があろう。自分という存在は、無数の「貸し借り」からなる網の目のようなもので、その網がなければ、自分は存在しないのと同じだ……。

しかし、だ。その「貸し借り」の関係が、一方的になったり、片寄ったり、固定的になったりしてはいけない。互いに、バランスをとりながら、依存したりされたりという相互依存の関係を注意深く維持していくことこそが、何より重要なのだ。でも、ユダンのように、一方に貸しが、他方に借りが増えて、人間関係のバランスが失われていく。さらに、そ

れが強弱や上下の関係となり、しまいには固定的な支配／被支配の関係へとつながるだろう。

グレーバーによれば、この傾向に対する根強い警戒心が、伝統的な社会の人々の中に生き続けてきた。彼があげたアフリカ社会の例も、固定的で抑圧的な上下関係を巧みに回避しようとする、ミンシエウの知恵を示している。【ア】

そもそも、ものを交換したり、交易したりするのは、たんに必要な物資を手に入れるためではなく、むしろ、モノのやりとりを通じて、人間同士のつながりをつくり、維持し、強めるためだったのではないかと、多くの人類学者が考えている。

きみは「フェアトレード」という言葉を聞いたことがあるだろうか？「先進国」の企業や消費者ばかりが得をして、「途上国」の生産者がいつも損をするような貿易（トレード）のしくみを改めて、もっと公正（フェア）な関係をつくらう、という国際的な活動のことだ。

ほくはそこに使われている「フェア」という言葉が大好きだ。【イ】フェアは、だれかとだれか、何かと何かの間に成り立つ、関係性を表す言葉だ。これを「正しい」という言葉と比べてみるとわかりやすい。【ウ】「正しい」は、自分だけでも成り立つ言葉だから、「ほくが正しい」「いや、私が正しい」というふうに言い合うこともできる。そしてそれがケンカのもとにもなる。いや、それどころか、戦争のもとにもなる。実際、戦争では「わが国が正しい」「いや、正義はこちらにある」とやり合う。そして、結果はたいがい、勝った方（軍事力や経済力が強い方）が「正

しかった」ことになる。【エ】

これに比べて、「フェア」はどうか。「ぼくがフェアだ」「いや、フェアなのは私だ」「いや、きみはフェアじゃない」などと言ひ合うのは、どこか変だ。自分だけではなく、相手も「フェア」だと感じるからこそ、「フェア」。つまり、X。相手がいればこそその「フェア」、つまり、「お互いさま」なのだ。

すると、「フェアトレード」は、ちよつとおかしな表現だということになる。今ではトレードと言えば国と国との貿易を連想する人が多いが、もともとは、山と海の間、川上の村と川下の村の間など、地域同士、集団同士、さらには個人同士の間で行われる交易や交換のこと。そのキボがどうであれ、トレードにおけるもののやりとりは、双方が「フェア」だと思ふから、成り立ったのだ。一方が「フェア」だと思わないのに、やりとりを強制すれば、それはもうトレードではなく、「搾取」か「強奪」だ。A、トレードとはその定義からして、「フェア」なのだ。

【オ】

ではなぜ、「フェアトレード」などという活動があるのか。それは、現代世界で行われている貿易のほとんどが「フェア」ではなくなっているからだ。

B、「先進国」の人が着る服のほとんどは「途上国」で作られる。服をつくる「途上国」の労働者の多くが、生活にかかる経費よりも安い給料で、しかも劣悪な条件の中で、選択の余地があるならやりたくないような重労働にジュウジする。

C、こうした服づくりが、環境に悪影響を与えていることも知られている。「途上国」の自然は急速に汚染され、資源は枯渇し、人々、そして生物の健康も損なわれる。

さて、こんな状態をきみはどう思うだろう。どう見たってフェアじゃないよね。でもこれらのことは、どれも法律で禁じられていることではない。それどころか、世界中で認められている自由な経済競争の一部なのだ。こうしたしくみの中で大きな利益を得ている企業はもちろん、おかげでファッショナブルな服を安く手に入れて喜んでいる先進国の消費者たちは、こう言うかもしれない。だれも強制されて働いているわけじゃない。「途上国」の政府も企業も労働者も、みんな「合意」の上でのことだから、これは「フェア」だ、と。

強い者がどんどん強くなり、弱い者がどんどん弱くなる。経済競争という枠組の中では、これもまた「フェア」だというわけだ。まるで「フェア」という言葉が、檻の中に閉じこめられてしまったかのようだ。

それを救い出して、また自由に羽ばたけるようにしてあげたい。そういう思いをもつ人々が始めたのが、「フェアトレード」運動だ。

「フェアトレード」が目指すのは、たんに生産者と消費者、田舎と都会、「途上国」と「先進国」の間の公正さではない。それは人間同士の間だけの「フェア」を超えて、人間と自然界との間、今の世代と未来の世代との間の「フェア」へと広がっていく。

生産者は消費者より、田舎は都会より、「途上国」は「先進国」より弱い立場にある。この両者の間のアンフェア（不公正）な関係を直して

いくことは大事なことだ。しかし、人間が無防備な他の生きものたちを、自分たちの都合だけで虐^{しいた}げてきたことも忘れてはいけない。三千万とも言われる生物種の中のたったひとつにしかすぎない人間が、光合成による地球の生産力の四十%をひとり占め^じしていると言われる。自分勝手な人間のふるまいは地球を汚染し、その気象システムまで狂^{くる}わせている。その結果、現在、地球史上六度目といわれる種の大絶滅^{ぜつめつ}が起こっている。人間以外の生物にとってなんとアンフェアなことだろう。

(辻^{つじ}信^{しん}一^{いち}『弱虫^{じやくちゆう}でいいんだよ』より)

※1 文化人類学者……人間の文化や社会という観点を中心に、人類について調査、研究を行う学者。

※2 相互依存……お互いにたより合うこと。

※3 搾取……対価を支払^{しはら}わずに、利益を自分のものにする事。

問一 線部 a ～ d の、カタカナを漢字に直しなさい。

問二 A B C に入ることはとして最も適切なものを、次のア～クの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で

答えなさい。

- ア つまり イ しかし ウ さて エ そして
オ たとえば カ そもそも キ また ク では

問三 次の一文が入る最も適切な箇所^{かしよ}を、本文中の【ア】～【オ】の中から一つ選び、記号で答えなさい。

そこには、「強弱」や「勝ち負け」の二元論を超えようとする意志が感じられるから。

問四 線部①「網の目のようなもので」とあるが、それはどのような様子をたどっているか。最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「貸し借り」をすることで、無数の善と悪が生じる様子。
イ 「貸し借り」をする中で、他者とのきずなを堅^{かた}くする様子。
ウ 「貸し借り」のせいで、自己の存在を見失ってしまう様子。
エ 「貸し借り」によって、世界の内側に閉じこめられる様子。
オ 「貸し借り」の関係で、無数の人々と複雑につながる様子。

問五 X にあてはまる内容として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手側が満たされると「フェア」と言える
イ 「フェア」の定義を共有しておく必要がある
ウ お互いが「フェア」な要求をする権利がある

エ 「フェア」は双方の合意なしには成り立たない
オ 相手が存在すること自体「フェア」なのである

問六

——線部②「『フェアトレード』は、ちょっとおかしい表現だということになる」とあるが、そう言えるのはなぜか。最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「トレード」とは、もともと公平な条件のもとで行う取引を表すのに、さらに公正さを表す「フェア」という言葉が、「トレード」という言葉に重なっているから。

イ 「フェア」は、人間同士の関係における公正さを表すのに対し、「トレード」は、貿易などの商取引における公正さを表すので、両者を混同していると言えるから。

ウ 「フェア」は公平でかたよがない、という意味の言葉なのに、不公平と格差が常に生じる「トレード」という言葉に結びついていて、点に矛盾を感じるのであるから。

エ 「フェア」も「トレード」も、双方にとって公正であるという点では同じだが、国同士の交易の実態を例にとると、その定義とはちがいがあから。

オ 「トレード」の定義は、交易は「フェア」なものであるとしているが、実際の交易には不公平が多いので、「トレード」を定義通りに使えないのがおもしろいから。

問七

——線部③「こんな状態」になるのは、現代の世界の貿易が何に基づいて行われるためか。本文中から、七字で抜き出して答えなさい。

問八

——線部④「アンフェアなことだろう」とあるが、「アンフェアなこと」とはどういうことか。また、筆者はこれからどうすべきだと主張しているか。七十字以内の一文で説明しなさい。

問九

本文を通して筆者が述べていることとして、適切でないものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「フェアトレード」運動の背景には、世界で行われている貿易のほとんどが公平性に欠けるといふ事実がある。

イ 先進国は、途上国との貿易のあり方が、自由主義経済に基づく公平なものになるよう、改革するべきである。

ウ 世界にはフェアでない関係がいくつも存在するため、広い視野で世界をながめていくことが必要である。

エ 経済競争の枠組みの中では、お互いが合意のうえで行う貿易であっても、フェアになるとは限らない。

オ 「貸し借り」における相互依存関係がくずれると、そこから強者と弱者という関係が生まれてしまう。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

五年生の新学期、「ぼく」は所くんのとなりの席になった。二回目の国語の授業で「一分間インタビュ」をすることになり、所くんと組になった「ぼく」は、所くんが玉ノ川の岸辺にある「水辺の楽校」で木登りと川流れ体験をするのが好きだと知った。ある日、所くんは玉ノ川の岸辺で拾ったクルミの種を「ぼく」にくれた。次の文章は、「ぼく」と所くんが「水辺の楽校」について、話をしている場面である。

「水辺の楽校って、川にあるんだよね？」

「そうだよ。玉ノ川の岸辺」

「岸辺にクルミの木があるわけ？」

「クルミだけじゃない。ヤナギやクヌギなんかも生えてるよ。ジャングルみたいに」

川の岸辺がジャングル？ 想像がつかない。

「どうしてそんなこと知ってるの？」とぼくは質問した。

「ボランテニア活動をしてるんだ。そこで毎週そうじをしたり、安全活動のコーチをしたり。日曜日にはぼくも参加するよ。楽しいから」

玉ノ川は電車の駅を挟んで、学校や学区と反対がわにある。歩いて三十分くらいかな。ぼくはほとんど行っただけだ。家族とテッキョウの下でバーベキューをやったことが二回あるだけだ。

「なにが楽しいの？」

「自然の中にいるのって、楽しいじゃない」

「どんなことが？」

「木登りや昆虫採集やザリガニとり。化石探しとかも」

「化石なんて、そんなところで見つかるの？」

「すぐたまにだけど、化石島でとれるよ」

化石の話まで聞くと、うそっぽい気がした。川のそばで木登りや昆虫採集だけでなく、化石探しもできるなんて。

「ミッキーやミニーもいるとか？」

そういつたら、自分でも笑いそうになった。

① 所くんは困ったように眉をヒクヒクさせた。

「それはいいよ。でも、うそだと思うならきてみなよ。案内するから」行ってみたいと思った。だけど、きつと無理だろう。放課後は早く家に帰ってピアノの練習をしなければならいし、週末はお母さんから長い時間レッスンを受けることになっていた。木登りだとかザリガニとりは、指をけがするかもしれないから、お母さんはだめだというに決まっている。……お父さんに相談してみようかな。

その日、お父さんは夜おそくに帰ってきた。所くんから聞いた話をすると、

「おもしろそうじゃないか。行ってきなさい」と賛成してくれた。

③ 「お母さんはきつと反対するよ」

「じゃあ内緒にすればいい。子どもは外で遊んで強くなるんだ」

ぼくの首をグリグリッともんだ。

お酒を飲んできたとき、お父さんはよくこうする。きげんがよく、ぼくの味方になってくれる。ふだんはお母さんに、なんていうか、「尻(しり)にしかれている」状態だけだ。

「ちよっと待ってるよ」といって、お父さんは自分の部屋からなにかを持ってきた。

「ほら、すごいだろ」

小学生がよく使う学習ノートだった。表紙の真ん中に生き物の写真がのっている。

三冊あって、それぞれクワガタ、トンボ、ザリガニがカラーで大きく写っていた。いまにも動き出しそうなほどリアルだ。⁽ⁱⁱ⁾

「これ、お父さんの？」

「むかし使っていたやつ。記念にとっておいたんだ。お母さんに見せると、嫌(いや)な顔されるけどな」

お父さんはわざとひそひそ話のようにいって、首をすくめた。

お母さんはお風呂(ふろ)に入っていたから、聞こえないはずだけど。

そのノートはぼくたちも学校で使っていた。いろんな教科のものや自由帳もある。でも表紙は花の写真ばかりで、動物や昆虫はない。

「ばくもクワガタのノートがほしい」

「今はないんだよな。こういうのが苦手な人たちもいるらしいから」

そうなのか。すごく残念。

「おまえが本物をつかまえてくるのが一番だ。その、水辺のなんとかっ

てところで」

お父さんは自分もうれしそうな顔でうなずいた。

「ほんとに行ってもかまわない？」

「男(おとこ)どうしの秘密(ひみつ)だぞ。ただし軍手を持っていけよ。お母さんが心配するから」

約束成立。お父さんが忘れないように誓(ちか)いの指切りをした。

これまで次の日になると忘れていることがよくあったから。

四月の第三日曜日、⁽⁴⁾ぼくは自転車に乗って所(ところ)くと玉ノ川へ行つた。空はピカピカのカイセイで、^b長そでのジャンパーが暑苦しく感じるほど暖(あたた)かい。サイクリングにぴったりの日だった。

友だちの家で勉強してくるといったら、お母さんは[A]を丸くした。そんなことをいったのは初めてだったけど、疑われたりはしなかったようだ。お昼にピアノのレッスンは始まるから、それまでに帰ってこなければならぬ。リュックにはお父さんにいわれたとおり、軍手や着替(きか)えの服を入れた。

九時に校門の前で待ち合わせ、二人ならんでレッツゴー！

電車の踏切(ふみぎり)を越え、^cなんだかすごい冒険(ぼうけん)に出かけたような気分になった。[B]がおどる。ここから先は自分の陣地(じんち)ではないところだから、あやしい人や妖怪(ようかい)みたいなものが現れるかもしれない。そう思った

ら、心臓の音がますます速くなった。

もつとサイクリングをしていたかったのに、踏切をわたって五分くらいすると玉ノ川の土手が見えてきた。三年生のときにはだいたい遠く感じ

た川が、二年たつと半分くらいに距離がチヂまったみたいだ。

「ジャングルはどこにあるの？」

ぼくは自転車の速度を落として所くんに聞いた。

岸边にはランニングしている人がいるだけで、木なんか一本も立っていない。

「もつと下流のほうだよ。あと一キロくらい」

そういうと、所くんは自転車のペダルをグツと踏み込んだ。変速機のギアも変えたようだ。ぼくの前に出て、すぐに五メートルくらい差をつけた。

(中略)

ガシャーンと大きな音がして、所くんのからだが宙に浮いた。土手の上で一回バウンドすると、草が生えた緑の斜面を勢いよく転がっていった。テレビドラマでよく見るシーンみたいに。

やばい！ すぐに自転車を止めて斜面をかけ下りた。所くんが倒れていたら、ぼくは救急車をよばなければいけない。前の週に保健の授業で一九番通報の仕方習ったばかりだった。

所くんは地面に尻もちをついていた。両足を大きく広げて。でも上半身は起きていたし、目も開いている。ホッとした。

「大丈夫？」

「大丈夫……みたい」

所くんはいつものぼうつとした調子でいった。

白いベストに黒っぽいズボンをはいていたから、パンダのように見え

た。

ベストには小さな葉っぱがたくさんついている。

「頭も、平気？」

ぼくがたずねると、所くんは尻もちをついたままポンポンと頭をたたいた。

「あ、星が見える。いっぱい。平気じゃないかも」

そういつて、虫をはらうように顔の前で手を振った。変なおどろみみたいな手の動かし方だ。見ていたら笑いそうになった。

そこから先は自転車を押して歩いた。少し行ったら、キラキラ光る川に沿って木立が現れた。ふんわりと葉を茂らせたヤナギだった。ヤナギは校庭にも生えていたから名前がわかる。でも、そのあとに姿を見せたほかの種類の木はぜんぜん知らないものばかり。ちよつと進むあいだに、岸边の様子はどんどん変化していった。

「ほら、あそこだよ」

所くんがびっくりするほど大きな声を出した。

一気に緑が増えて、もう地面が見えなくなっていた。高い木が数え切れないほどならび、そのまわりを囲むように草が生い茂っている。

ほんとうだ。所くんがいったように、これはたしかにジャングルだ。興奮して、ジワツと背中に汗がにじみ出た。

(本田有明『水辺の楽校』の所くんより)

※1 バウンド……跳ね上がること。

問一 〓 線部 a d の、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問二 A・B にあてはまる身体の一部を表す語を、それぞれ漢字一字で答えなさい。

問三 〓 線部 (i)・(ii) の意味として最も適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(i) 尻にしかれている

ア 弱みをにぎられている

イ 頼りにされていない

ウ 言いなりになっている

エ 怒られてばかりである

オ 話し相手にされていない

(ii) リアル

ア 威勢がよい様子

イ 古ぼけた様子

ウ おそろしい様子

エ 現実的な様子

オ 生命力のある様子

問四 〓 線部①「所くんは困ったように眉をヒクヒクさせた」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どうすれば「ぼく」が「水辺の楽校」に関心を持ってくれるのか、しばらく考えていたから。

イ 「ぼく」の冗談に見合ったおもしろい返答が頭に浮かばないので、都合が悪くなったから。

ウ 「水辺の楽校」で化石がとれるのを疑ってかかる「ぼく」の態度が気に入らなかったから。

エ 「ぼく」のおどけた質問から、「水辺の楽校」の話があまり通じていないと感じたから。

オ 「ぼく」が「水辺の楽校」に興味を示さないので、返す言葉を失ってしまったから。

問五

〓 線部②「賛成してくれた」、〓 線部③「きつと反対する」とあるが、お父さんが「賛成してくれた」理由と、お母さんが「きつと反対する」理由として最も適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 学校の宿題をする時間が減ってしまうから。

イ 「ぼく」を味方につけておきたいと思ったから。

ウ 子どもの時に愛用したノートを自慢したかったから。

エ ケガをしても子ども同士では手当ができないから。

オ 子どもが外で遊ぶことの大切さがよくわかるから。

カ ピアノのレッスンのさまたげになってしまうから。

問六

——線部④「ぼくは自転車に乗って所くと玉ノ川へ行った」とあるが、「玉ノ川」は、「ぼく」の生活の中で、どのような場所にあるのか。本文中から、十字で抜き出して答えなさい。

問七

——線部⑤「草が生えた緑の斜面を勢いよく転がっていった。テレビドラマでよく見るシーンみたいに。」とあるが、この部分に使われている表現技法として適切なものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア	直喩 ちよくゆ	イ	隱喩 いんゆ	ウ	対句 たいく	エ	体言止め
オ	擬人法 ぎじんぽう	カ	倒置法 とうちほう				

問八

——線部⑥「これはたしかにジャングルだ」とあるが、このときの「ぼく」の気持ちを、「水辺の楽校」にやってくる前の気持ちにもふれながら六十字以内で説明しなさい。

受験番号	
	氏名

[illegible]

合計

採点欄